

国際交流室から

守 隆夫（動物学教室）

この度、私は外国人留学生指導担当という仕事をさせていただくことになりました。指導担当といっても、専門的な学問についての指導というわけではありません。私の専攻は動物学の一分野、内分泌学というものですし、留学生諸君もそれぞれ異なる学問分野で、専門家として一人立ちするための勉強をされているのですから、それぞれの専門分野の難問を解決することはお互い不可能です。また、その為に留学生諸君には同じ分野の先生方が指導官としておられるのですから、そんな必要もないわけです。そこで私の任務は、馴れない外国（日本）に来られて勉学されている留学生諸君が、すこしでも気分よく勉強に打ち込むことのできる状態を作り出すことであると考えています。では具体的になにをするのか、すこし書いてみます。

私自身のアメリカ留学時代の経験をもとに考えてみると、まず第一に重要なことは留学生諸君が親しい友人をつくることで、そのためのお手伝をしようということです。留学先の國の人と仲良くなることは、ごく自然にその國の言葉を覚えてい

くことになりますし、また、その國の慣例、生活様式などに馴れることにもなり、新しい環境に溶け込みやすくなると思います。単なる友人ではなく親友、何んでも相談できる人が必要なのです。眞の心のかよう親友がつくれるのは、本人の心掛け次第ですが、なるべく多くの日本人学生と知り合う機会をつくって、親友と出会う機会をすこしでも多くしてあげようというわけです。次に、留学生同志の交流も大切なことなので、その場をつくろうということです。多くの場合、日本人は外国で暮らすとあまりにも団結しすぎて、いわゆる日本人村をつくってしまい、結局短期間の留学中その國を、あるいはその國の人々を知る機会を自ら失なう場合がままあります。こういった閉鎖的な付き合いはいけませんが、先輩の助言は必ず役立つものです。留学生諸君がそれぞれの専門分野で勉強されているかぎり、自宅と大学の往復だけになることは明白です。故國の、あるいは他の國の留学生と知り合う機会は意外と少ないのでしょうか。そこで毎月何回か留学生の集まる場をつくる予定です。そこでは自分の勉強して

いる分野の話を、素人にも判るように平易に発表してもらうつもりです。また聴く方も、たまには全く違う分野の話で視野を広げることが出来るはずです。同じ環境にある学徒同志の話し合いは、学問上の問題の解決につながる有益な示唆、あるいは生活上の問題に対する良い解決策など、必ず得るところが大きいと思います。以上のような事からまずやっていくつもりです。

一方、留学生の受け入れ側として、留学とは勉強することだけであるなどと考えてもらっては困るのです。留学先の国に対して良い感情を持って帰国してもらうことは、将来の日本にとって一つの無形の海外財産として有益であることは明白です。これが反対になった場合、その損失は計り知れないと思います。そこで大学および文部省に対しては、留学生のための寮施設の充実などを、お願いしてゆきたいと思いますが、我々だけでもす

ぐに出来ることもあるはずです。例えばアメリカの私の留学先では外国人留学生のために、生活用品を貸してくれるシステムがありました。これなどはすぐにでも実行できることだと思います。大学のどこかに不用になった食器、ナベ、カマ類を集めておき、外国人留学生に優先的に、お役所的な面倒な手続きなしに、サイン一つで貸し出すとよいと思います。

これから留学生諸君との交流が深まれば、また良い考えも浮ぶと思います。まだ留学生諸君の集まる場所の設定など、決定していないこともあります、そんなに活動はしておりませんが、留学生を受け入れられておられる教官の方々は、どうか一度は私のところに雑談でもしに来るよう彼等にお伝え下さい。あまり形式ばらず気楽に話し合って、だんだん留学生諸君の気持を理解していきたいと思っております。